

【R7年度 三宅島フィールドワーク 研修内容】

三宅島フィールドワークを実施するにあたり、今回も数多くの三宅村の方々にご協力いただきました。ご講義をいただいた気象庁長谷川嘉彦様、三宅島観光協会の皆様、村営バスご関係の皆様、宿泊や港への送迎でお世話になったペンション・サントモさん、美味しいお弁当をご準備いただいた正大ストアさん、はせがわさん。研修を安全に事故なく、また大変有意義な内容として実施できているのは、三宅村の様々な方からご支援・ご協力をいただいているおかげです。本当にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます

○出発 8月13日(水)

22:30、大型船に乗船し、船上にて夜景を楽しみながらの出発となりました。穏やかな海況で、予定通り翌朝5:00に三宅島錆が浜港に到着しました。



○1日目 8月14日(木)

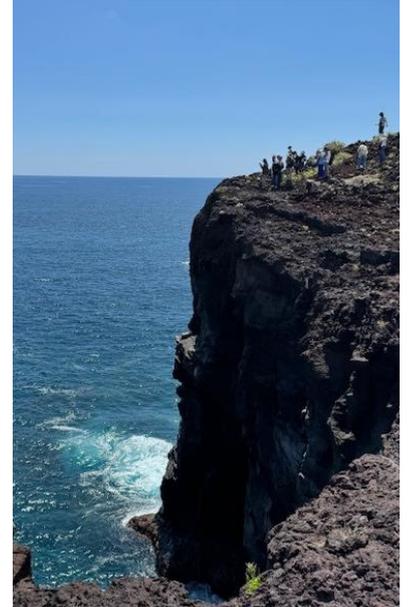
1日目の実習では、はじめに気象庁三宅島火山災害連絡事務所長の長谷川氏から噴火災害の防災に対するレクチャーをいただき、1983年の溶岩流跡や1962年にできたスコリア丘で植生調査を行い、2000年の泥流跡を椎取神社にて観察しました。

夜はミーティングの後、星空観察を行いました。天の川や銀河団まで観察することができ、内地ではなかなか見ることのできない綺麗な星空にみんなで感動しました。ペルセウス座流星群の時期であることもあり、流れ星も見ることができました！



○2日目 8月15日(金)

伊豆岬灯台での地層観察やサタドー岬での溶岩流の観察、溶岩にのまれた旧阿古小中学校の見学を行いました。また、大路池周辺では極相樹種の森で植生調査を行いました。伊豆岬灯台では、黒曜石やそれを加工した矢じりを発見しました。実習期間中は、毎晩夕食後にミーティングを行い、観察した植物や岩石を確認し、振り返りを班ごとにおこないました。



○3日目 8月16日(土)

天候にも恵まれ、雄山登山ツアーに参加することができました。避難施設でガイドの方からレクチャーを受けたあと、ヘルメットとガスマスクを受け取り、生徒たちは登山に向かいました。

2000年の噴火で形成された巨大な火口を観察することができました。滅多にみられない、雄大な景色に感動！！火口では地層の様子も観察できました。



○生徒の感想（一部抜粋）

- 今回のフィールドワークでは、座学だけでは得られない知識を手に入れられた。初日に行った栗辺の溶岩流跡や三七山では、クレパスにススキやシダ類、オオバヤシャブシなどがちょこちょこと生えており、植物がいつも見ているような緑に覆われた大地へと変貌する第一段階を目の当たりに出来た。また、二日目の大路池周辺の照葉樹林では、これまでの溶岩流跡の殺風景な景色とは打って変わって緑が濃く、イイジマムシクイやカラスバトの声なども響いていた。教科書では、数ページで書かれていた植生の変遷を、現地で、数ページでは収まり切れないような濃い体験ができ、他の地域はどうなのかなどより興味が深まった。
- 初日の火山の観測についての講義がとてもよかった。火山を観測するのにさまざまな方法があることや、こんなにもたくさんの項目があって人々の安全が守られていることが知れてとてもよかった。少し難しく感じるところもあったがとても丁寧な説明がありとても興味深く話を聞くことができた。また話を聞くことだけでなく雄山の登山や溶岩のゴツゴツの上を歩いたり、ひょうたん山を一周してみたり、森の中に入って植生調査をしたりと体を動かしながらさまざま姿の三宅島を見ることができたことはとてもよかったと思う。3日間の中でさまざま場所を訪れてよかった。
- 今回、フィールドワークにあたって、自分で植物の図鑑を作ってみました。想像以上にその図鑑が役に立ったのと、植物の特徴や名前をより具体的に頭に入れることができたので、その後の活動で役に立ちました。おかげで、植物の特徴も通常の理解よりも深い理解が得られると共に、観察する視点も、より学びが多い視点を選んで観察することができたので、全体的に学び(植物の遷移や生態など)を多く得ることが出来ました。
- オオバヤシャブシやハチジョウイタドリなど、植生の遷移が実際に起こっている様子を見ることができて楽しかった！初めて植生分布の調査をするなど、なかなかできないような体験もできた。また、今まで知らなかった植物の種名を多く知れてもっと知りたいと思った。
- 三宅島というあまり広くはない島の中でも火山の噴火の溶岩が流れたか流れなかったかなどの被害状況によって遷移の進み具合が全然違うことをさまざまな場所を巡ることで実感できたこと。また実際に植生調査を行うとさらに細かい場所ごとの違いが知れてとても印象に残った。
- 実際に自分で足を踏み込んで、遷移の状態を観察でき、火山のもたらす地形について詳しく学べた。栗辺やひょうたん山の遷移の初期の段階から、大路池の遷移が進んだ段階まで、実際に比べることができた。
- 以前噴火したときやその前の写真と今の写真を見比べてみると地形も全然違って、雄山では想像の何倍も火口が大きく、地球の雄大さを感じました。また海沿いに行くと波で浸食されたことがよくわかる岬や、今までの噴火の火山噴出物が積もったことがわかる地層も見られて貴重な経験ができた。
- 僕は、生まれて15年間、溶岩というものを生で見たことがなかった。だが、今回のフィールドワークで、栗辺やサタドー岬、三七山や椎取神社、阿古を見て、火山の雄大さと危険性を改めて感じた。三宅島は、カルデラ火山で、島の成り立ちにも関わっているため、私達が歩いていた地面の下にも、これと同じような火山の営みがあったのだと感じた。火山の活動は、時に自然や人間の営みにも大きな影響を与える。そのように、地球全体を包括的に学習する地球科学に大きな魅力を感じました。